第7回

ナガサキ・ユース代表団活動報告会

地球の未来を考える

ナガサキ・ユース代表団第7期生

厳選ブログ集 in New York

> ナガサキ・ユース代表団 Facebookページは



3 時

2019年6月5日(水)

18:00-19:30

☆ * 文教スカイホール



ナガサキ・ユース代表団第7期生

厚田梨帆、内橋寛二、何雲艶、高見すなお、永江早紀、中島大樹、中山穂香、牟田麗、矢野大輝

【厚田の車窓から 5月1日】

こんにちは!最近ニューヨークは雨が降ったり止んだりしています!日本は令和になりましたね。平成の女としてこれからも活動していこうと思います!今回のブログでは、二つのことについて書こうと思います。

まずは、サイドイベント。

厚田、高見、矢野、何、牟田、中山の 6 人で半年間走ってきた時がむくわれた瞬間でした。 "人類みなヒバクシャという意識を継承する"というタイトルのもと、私たちのヒバクシャの定義 を提示しました。毎日このことばかりを考え自分が言いたいことが分からなくなり、メンバーと 言い合って感極まったりと本当にいろいろなことがありました。私たちがこのサイドイベントを する上で目的としたのは、見えない核の脅威を無関心な人に分かってもらうことでした。それ を継承するために一緒にその方法を考えたいと考えていました。プレゼンテーションが終わり 感想をもらう際に「自分もヒバクシャだと思った。」ということや「これからの将来この定義が大 事になってくると思う。」という言葉をもらった時に本当に頑張ったかいがあったと思いました。 私のパートでは 29 人の声を動画にして発表しました。一人一人に人生経験をきいてそこから 得た思いを聞いたため、一人一人に思い入れができました。このサイドイベントをするにあた って多くの人と共に作り上げました。動画に協力してくださった皆さん本当にありがとうござい ました。

次は、県人会議です。

この県人会議では、本当におしゃれな所で行われ、ニューヨークに住んでいる長崎にゆかりがある方々が集まりました。私のニューヨーカーのイメージそのものの人が集まりました。夢を追い求め、常日頃何か楽しい事を探しているキラキラした人たちでした。私は、大人になるにつれ、こういうことをしたいと思ってもどうせ出来ないと無意識のうちに考えてしまっていました。しかし、実際に夢を毎日追い求めている人を見て、口に出すだけでも全く違うんだと強く思うことが出来ました。

ニューヨークに来てから毎日が刺激的で、もっともっと頑張りたくなる日々を過ごしています。一生の夢の場所、ニューヨーク。自分が得た環境の中で多くの人の会い自分を成長させようと思います。

以上、厚田の車窓から。

厚田梨帆









【考える!楽しむ!驚く! in New York】4 月 30 日 内橋寛二

こんにちは、内橋寛二です。僕は、今回のニューヨークでの活動の中で、「考えたこと、楽しんだこと、驚いたこと」のうち一つをお伝えしたいと思います。

―核兵器が人類から奪う、目に見えないもの―

今日の昼休み国連の中に展示されている、先住民族の写真を見に行きました。それが、とっても面白いんです!カラフルな民族衣装を着ていたり、顔に独特な模様を描いていたりと、通りすがりにちらっと見ただけですぐ目に留まる特徴を持っています。そして、説明文に目を通すと、もっと面白いことがあるんです!例えば、エチオピアの牧畜民は、牛や羊などの動物を、その模様や身体的特徴によって80種類以上にも分類できるのです。さらに、美しさや勇気を示すために、自分を生贄に捧げる伝統なんかもあるという・・・

このように、私たちには一見理解しがたい不思議な、でも面白い文化や伝統を世界中の先住 民が持っているんですね。しかし、そうした文化は、外部社会が行う採鉱やビジネスなどで土 地が奪われるにつれ、絶滅の危機に陥っています。そこで、人類が豊かに生きるための、自 然と共生するための知恵が凝縮されている先住民の文化・伝統を、世界中の人々が知ること で、協力して守っていこうというのが大事なことであり、それが、この展示の目的でもあるので す。

さて、午後の会議に戻り、しばらく聞いていると、コスタリカの政府代表の発表が始まりました。この国は、核兵器禁止条約に批准している国です。それは、核兵器が人間の身体、環境を破壊することに加えて、「文化的伝統(cultural heritage)」をも破壊するものだからだと述べていました。まさに、僕が興味を持った先住民族の文化・伝統が核兵器によって失われるかもしれないのかと考えると、核廃絶の思いをこれまでよりも強く感じることができました。

お一っと、そんなことを考えていると、今日も長時間の会議が終了しました!みなさん、お疲れさまでした。そして、議長はじめ、政府代表の方々は、本当にお疲れだと思います。ホテルに戻り、しっかり身体を休め、明日もまたやってくる会議に備えていただきたいところですが・・・国連を出る前にぜひ、先住民の方の顔写真に目を向けて見てください。そして、考えてみてください。核兵器は私たちから何を奪ってしまうでしょうか?目に見えるもの、見えないもの含め、奪われる存在がいかに多いかを感じるほど、核兵器なんてないほうがいいと思えるのではないでしょうか。

内橋寛二





【ニューヨークからの現地レポート NO.2】2018 年 5 月 1 日 何雲艶

皆様 遅くなりまして、令和あけましておめでとうございます!◎

今日はいよいよ私たち2ヶ月間をかけて、準備してきた NGO ルームを行うことになりました。

私たちのテーマは「To Inherit the Consciousness That All Humans Are HIBAKUSHAs」 (人類みなヒバクシャであるという意識を継承する)です。

今回、私たちは勉強してきた知識とこういう周知の現実を踏まえ、ヒバクシャについて再定義 して、三つの類別に分けました:

- 1 1945 年に、広島・長崎に投下された原子爆弾による被害を受けた人たち
- 2 核実験と原発事故による被害を受けた人たち
- 3 今現在生きている全ての私たち

私も常にいろんなところで言っている通り、日本は世界唯一の戦争被爆国ですが、日本人は 唯一の被爆国民ではありません。核兵器廃絶は、国境や民族感情、イデオロギーなどのす べてを超えて連帯し、全世界に呼びかけなければなりません。核兵器と戦争がない平和な世 界を築き上げることは私たち若い世代が担うべき責任だと思います。

(Just as what I'm always saying, Japan is the only nation on Earth to have been attacked by nuclear weapons, but the victims were not only Japanese. In order to make a nuclear-weapons-free world come true, we should work together across the borders of racism, nativism, and ideology. Especially, we young generation should take the responsibility to build a world without nuclear weapon and war.)

しかし、放射能は一般の環境問題とは違い、肉眼で見えないもので、現在の人々は核に無関心であることは現実です。ゆえに、どうすれば、皆様一人ひとりに「当事者意識」を持ってもらい、核問題について関心を持ってもらうことは、核兵器廃絶を実現する道に、第一の緊急要項だと考えます。

この定義の第一項と第二項は一般的の認識で、理解しやすいが、第三項については驚愕する人が多いかもしれないと承知しております。

そして、予想通り、一人の女性は、「自分がヒバクシャとは思いません。あなたたちが言ってる のはヒバクシャたちの感情を理解して、ヒバクシャと共感できたのだろう」と発言しました。 実は、そもそもこの定義について、私たちのチームメンバーの認識も全員一致していません。私個人は、第3項については、事実上に被曝されたと認識するから、このように三種類に分類しました。皆さんはこの三つの分類方法について賛成してくれたが、第3項についての理解が違います(上記の会場で発言した女性の考えに近い)。

私の定義は過激で極端であると思われるかもしれません。しかも、私の定義は皆さんの定義の範囲にも入っていると思います。従って、今回の発表は、極端なものにせず、メンバーの皆の定義に従っていこうと思いました。

でも、意外に嬉しいのは、私と同じく考えている方々を見つかりました。

まず、メールで連絡した一人の方は、「自分の友達はちょうど核実験被害者の研究者で、450 回の核実験によって影響された 2,000,000 人の調査を行なった。核実験の影響範囲は実験場だけではなくて、全世界の人類に影響を与えている。だから、私たちはあなたたちの定義に賛成する」(〇〇 is from Kazakhstan where over 2 million people have been affected by the 450 nuclear explosions conducted by the Soviets on Kazakh territory. The victims of over 2000 nuclear tests from Kazakhstan, Marshall Islands, Nevada, Moruroa, Lop Nor, Christmas Island and other nuclear tests sites is not only confined to those tests sites, but has impacted humanity globally. In this sense, we would agree that 'we are all Hibakusha (victims from nuclear weapons use).)

また、来場の方々の中に、核試験の実行と核産業の発展によってもたらされた放射能が環境と人間に与える影響は実際の割合について確認してくれた方もいらっしゃったのです。

ユースの Facebook をフォローしていただいた方は、私たちユースが今回の会議傍聴のため、たくさんの勉強会を行ったことがわかると思います。そのうち、ヒバクシャの森口さんが「人類みんなヒバクシャ」を語ってくれました。その時は、私が初めてこの言葉を聞きました。当時の私もそれはあくまでも「感性的な」、「大げさな」、「文学的な」表現に過ぎないと思い、完全に合意できませんでした。しかし、その後の広島合宿の時に、核兵器と核実験が社会に与える影響について研究している Alan Jacobs Robert 先生の講座を聞きました。Jacobs 先生は先行研究及び自分の現地調査の結果を用いて、物理学の角度から核実験と原発事故が地球に与える影響を説明していただきました。それで、改めて森口さんの言葉の意味を理解できました。「人類みんなヒバクシャ」は文学的な表現ではなくて、事実です。

1945 年初めての核実験以来、9ヶ国により、約 2,000 回の核実験が行われました。これらの核実験は自分の生活圏の中に行われていないので、自分と関係ないと思いやすいですが、実際はそうではないです。大気圏核実験は同じ大気圏の中にある全てのものに、影響を与えています。

「大気圏核実験が行われていた時代には大量の人工放射性核種が環境中に放出されました。これらの人工放射性核種は気流に運ばれて全世界を取り巻き、大気圏から地球表面に向けて徐々に降下してきました。このような放射性降下物をフォールアウトと呼びます。」と日本の環境省ははっきり定義し、説明しました。

なお、ご存知の通り、核物質の半減期はかなり長いですので、人間の寿命の 80 年~100 年 ぐらいの時間に対して、「永久的に存在する」とは言えます。こうから見ると、今同じ地球上の 私たちみんなは、核実験・原発事故による被害を受け続けて、被曝されています。

しかし、今回非常に残念なのは、質問された具体的の割合についてはわからなくて、はっき り答えられませんでした。長崎に戻ってから、これについて調べていきます!

いつも通り、話は長くなりまして、すみませんでした!^_^これから、広瀬先生が教えていただいた通りに、「十分の一」に濃縮して、精錬して発言することを頑張っていきます♥□

どうぞよろしくお願いします!□

Thank you for your reading. @何雲艶







5月3日(金) 【ニューヨーク旅】No5

みなさん。こんにちは!高見すなおです。

NY に到着してから早1週間が経ち、時の流れの速さにただただ驚きです。

いよいよ今週の金曜日には NPT 再検討準備委員会会合も最終日を迎えます。

「国連での国際会議」と聞くと「すべての国が平等に意見を反映できる」「討論の理想形」といったイメージがありましたが、これまでの会議傍聴を経て違うと感じたことがあります。

各国それぞれの言い分を扱うからこそ、時間がかかったり、会議としての秩序を守りながらも相手国よりも自国の意見を強める場面があったりと自分のイメージであった「すべてが丸く収まっている」状況ではないことを実感しました。

5月3日は、午前中から高見澤軍縮大使との面会、日本語補習校である育英学園での平和出前講座、ニュージーランド政府・アメリカ政府との対談と1日予定が詰まっており、充実した時間が続きました。

複数の予定が被っていたため、私が参加することのできなかった予定もあったので、 残念!!

渡航前から立てていた予定ですが、限られた時間の中で違うタイムマネジメントができたのかもな~~~と少し反省です。

前置きが長くなりましたが、数ある予定の中でも私が焦点を当ててご紹介するのは 「育英学園での平和出前講座」です!

今回の授業には、ユース 7 期生メンバーに加えて、OG も方も交えて小学校 5 年生と 6 年生に授業を展開していきました。私は主に動画撮影やディスカッションへの参加 を任務に行ってまいりました!

そして!今回の育英学園での授業が私にとって初めて見る「子どもたちへの平和出前 講座」でした。

最初に子どもたちが「こんにちは~~!!!」と元気に教室に入ってきたときに、 (私は授業者ではありませんでしたが)なんだか緊張しました。

いざ、授業が始まってみると子どもたちは皆自分の意見を持ち、それを声に出して外に発信しようとする積極的な姿勢に驚きました。さらに、子どもたちが持つ核兵器情勢に関する知識のレベルが高かったです。

具体的な話をさせていただきますと、

授業内では、イラストを見せながら、「核兵器保有による抑止論」は説明したのですが、

私がお邪魔させていただいたグループでは、「日本」に話の中心を添え、抑止論と併せて考え、「日本は間接的に抑止論に頼っている」という結論に至りました。

抑止論をめぐる日本の立場に関して、「間接的に依存している」という言葉や考え方 自体はこれまでの勉強で染みついたものではあったけれど、自力でその考えにたどり 着く小学生たちを目の前に驚き、感動しました。

また、ある先生が「同じことを言っていたとしても言い方が違うでしょ?そうしたら、書いた方がいいよ」と子供たちが個人の意見を紙に紙に書き込んでいるときにおっしゃっていました。

そのような言葉を投げかけられた子どもたちは嬉しいだろうな~~と育英学園の先生 方と子どもたちの関係性を素敵だなと感じた瞬間でした。

しかし、平和講座後の恒例ではありますが授業の「改善点」が見つかりました。

その中でも最も大きかった点が「質問を投げかける時間とそうでない時間を明白に分け、質問・疑問を投げかけるのであれば、考えさせる時間の確保やタイミングの見計らい方など重要ですよ」という学園側の先生に教えていただきました。

私自身、平和出前講座の経験がまだないので、今回の授業者たちを見て、参考にしたいなと思います!

ポストが遅れてしまってごめんなさい。最後まで読んでいただいてありがとうございました!

高見すなお







2019/05/05

【Saki は何しにニューヨークへ?!】No.10

Hello from New York!!

人馴れした鳩にぶつかりそうになり、車にもクラクションをならされるようになり、すっかりニューヨーカー

↓ になったと自負している永江ですusus

少し時間が空いてしまいましたが、

今回は~休日編~としてブログを書きたいと思います♪

無事に一週目を乗り切り、この2日間はゆっくり休日を楽しみました。

とはいったものの!

土曜日は1つ目の宿泊先から2つ目の宿泊先への移動日!!

みんな重い荷物をゴロゴロ引きづりながら、電車をキャッチするのに走りながら、

そして6期 OG として来ていたれっち(原田)とお別れをしながら...

汗ると涙●で忙しい1日を過ごしました◎◎

そして、5日の日曜日は、1日中、911メモリアルに行ってきました!!念願の!!

私事ですが、卒論のテーマを『博物館における記憶の継承とその変遷』とし、研究をしています。そのため、どうしても 911 には行きたい!!!という思いで

やっと、ゆっくり時間をとって行くことができました。

911 メモリアルに対する率直な印象は、

「アメリカってすごい」です。

これ今時でいうと、語彙カ―――!ってつっこまれる所なんですが(私と厚田が言われがちなやつ)、それはそれはもう、色んな意味でこの一言につきました。

研究トピックのせいか、正直最初からそれなりに身構えていきました。(笑)

疑っていたというわけではなく、911については様々な議論があることを聞いていたし、

個人的に記憶の継承というテーマをもとに博物館を見ていきたいと思っていたので、

とにかく様々な視点で見ようという気持ちで行ってきました!

思ったこと、感じたことはたくさんあります。

まず、この事件では、911 の時にハイジャックされた飛行機の中にいた人、崩壊をした2棟の ビルにいた人、ペンタゴンにいた人、救助に向かって帰ってくることができなかった人、崩壊す るビルの周りにいて巻き込まれた人、

ありとあらゆるシチュエーションで、たくさんの人が亡くなりました。その日のうちで 3000 人です。

その分、情報量もすごくすごくたくさんありました。その情報量がまず「すごい」。

私はその隅から隅までをみたくて、知りたくて、気づいたら四時間が経過していて、

そのくらいの写真、メッセージ、物、データ、そしてストーリーがたくさんありました。

そして、それがきれいにオーガナイズされて展示されている、その見せ方が「すごい」。

これはパールハーバーを訪れた際も感じたことです。アメリカは見せ方が得意で、圧倒的に 私が見てきた日本の資料館とは違いました。

特に、911 は最近起きた出来事というのもありますが、とてもリアルに感じました。

それは写真がカラーで、そこに写っている人たちが今の自分たちと同じスタイルの服をきていたからなど理由はたくさんありますが、

そういう何気ないことでも、いかにその過去と現在を生きる人々の間の「共感」を生むかという ことは、記憶の継承においてもすごく重要なポイントだと思っています。

私が今まで見てきたアメリカのメモリアルはこういった所がとても上手だなあと感じます。

もちろん事実は事実で、事実を盛ったりしているのではなく、「見せ方」です。

いくつか紹介をすると、

展示のところどころで、当時その出来事を見ていた街の人々の驚愕した表情が写真で見られます。また、当時のあらゆるシチュエーションにおける人々の肉声もところどころで聞くことができます。館内には、事件が起きた後人々が自分の家族や友達を探すために街中に貼ってあった紙なども、ところどころで再現されていました。

まだまだたくさんありますが、こういった見せ方のおかげで 911 の出来事をとてもリアルに感じることができました。

見終えたあとはとても心がズシンと重くなりました。

それは、私が色々考えたり、世界が 911 に関する様々な議論を繰り広げたりしていても、 この事件で亡くなった命だけは、確かな事実だったからです。

このメモリアルにはたっくさんの人のストーリーがピックアップされており、たくさんの命を見たり、聞いたりしました。

背景や事実はともあれ、人の命がなくなることは、私はなにがあっても賛成できないと改めて強く感じたと同時に、人間の愚かさや儚さも感じ、命ってなんなんだろうなあ~とここ数日間考えるきっかけになりました。

伝えたいことがたくさんありすぎて、

なかなか上手くまとめられなかったけど、少しでも私が感じたことを共有できたらと思います。 皆さんも是非ニューヨークに行かれた際は、 自由の女神を見るよりも先に 911 メモリアルに行かれてみてください! 長くなりましたが、読んでいいただきありがとうございました。 永江早紀





【NPT の現場から】

第二号 「核軍縮と核不拡散をめぐって~核兵器国と非核兵器国の主張~」

2nd Claims over nuclear disarmament and non-proliferation regime between Nuclear Weapons States and Non-Nuclear Weapons States _

来年で条約の発効から 50 周年を迎える NPT(核不拡散条約)は、三つの柱、核軍縮、 核不拡散、原子力の平和利用の履行を締約国に規定している。

以上の三点は、次のように説明できる。現在、保有している核兵器を無くすこと。現在よりも核保有国を増やさないこと。核エネルギーを原発などとして平和利用する権利を持つこと。

NPT that will have been the 50 anniversary year in 2020 since entry into force defines the three obligations; nuclear disarmament, non-proliferation and peaceful use of atomic energy.

These three pillars are explained like below: to eliminate the all nuclear weapons that nuclear weapons possessing countries have, not to increase nuclear weapons possessing countries and to have the right to peacefully make use of nuclear energy.

この内の核軍縮と核不拡散を取り上げ、アメリカを筆頭とする核兵器国と非核 兵器国の主張を比べ、NPTが機能不全に陥っている一因を考える。

Taken up nuclear disarmament and non-proliferation here, we will consider a cause that brings NPT into erosion through comparison claims between Nuclear Weapons States and Non-Nuclear Weapons States.

核兵器国であるアメリカ合衆国は「NPT によって与えられる不拡散の保証はすべての国々を安全にする以上のことをする。」(the nonproliferation assurances provided by the NPT do more than just make every Party more secure)とした上で、核軍縮以上に核不拡散の重要性を強調している。

The U.S, the second biggest Nuclear Weapons State, emphasizes on the importance of non-proliferation rather than nuclear disarmament according to the statement "the nonproliferation assurances provided by the NPT do more than just make every Party more secure" and "These aspects of the NPT — both its nonproliferation assurances and the peaceful uses and disarmament potentialities that this nonproliferation core helps make possible — are thus shared interests for all NPT Parties, not competing priorities."

また、「不拡散の保証と、中心的な役割を果たす不拡散が可能にする平和的使用と軍縮の可能性の二つは、競合する優先事項ではなく、すべての NPT 締約国にとって共通の利益である。」(These aspects of the NPT — both its nonproliferation assurances and the peaceful uses and disarmament potentialities that this nonproliferation core helps make possible — are thus shared interests for all NPT Parties, not competing priorities.)としている。

つまり、ここでは NPT の三本柱について競合する優先事項ではないとしながら、不拡散により軍縮と平和利用を可能にすると述べていることから、「核不拡散>核軍縮」と考えていると思われる。

In short, the U.S sees the three pillars as not competing priorities however mentioning non-proliferation helps make the peaceful uses and disarmament potentialities possible, which can be interpreted its emphasis on non-proliferation.

一方、Non-Allied Movement(NAM)、主に核兵器禁止条約推進派である、非同盟諸国を代表したベネズエラの Statement では、 核軍縮を最優先課題とし、「核不拡散は核軍縮というより大きな目的から正当性が見出される」(*The Group reaffirms once again its principled positions on nuclear disarmament, which is its highest priority…Non-proliferation derives its legitimacy from the larger objective of nuclear disarmament.*)

On the other hand, Non-Allied Movement(NAM), advocates of TPNW, Venezuela on behalf of NAM claimed that nuclear disarmament is above everything else as mentioned like this "The Group reaffirms once again its principled positions on nuclear disarmament, which is its highest priority···Non-proliferation derives its legitimacy from the larger objective of nuclear disarmament."

つまり、アメリカを代表とする核兵器国はまさにアメリカの打ち出した「核軍縮のための環境作り(CEND)」アプローチのように、北朝鮮やイランの核開発のためか、核軍縮のための環境づくりを優先しており、非核兵器国は近年の核兵器の近代化といった脅威から核軍縮を優先としていることが分かる。したがって、互いの主張はやや噛み合っていないように感じる。核軍縮と核不拡散において、進展が見えないのも理解ができる。

We can say that Nuclear Weapons States prioritize Creating an Environment for Nuclear Disarmament(CEND) that is most likely to mean non-proliferation over nuclear disarmament. Non-Nuclear Weapons States have priority to nuclear disarmament by Nuclear Weapons States. Therefore, each claim doesn't go along well.

本来、冒頭に述べた NPT の規定する三本柱に優先も何も存在しないはずだ。もちろん、核兵器国の核軍縮義務が十分に履行されていない点は否定できないが、双方ともに三本柱あっての NPT であることなど、共通の土台というのが失われてしまっているのではないか。もう一度、目の前だけを見るのではなく、俯瞰的に互いの共通理解を確認する必要があるのではないかと思われる。

In conclusion, three pillars of NPT mentioned in the beginning originally don't have "priority" itself. It is sure that Nuclear Weapons States haven't fulfilled their obligations, however it seems that both sides lose the cornerstone for Nuclear Weapons Free World. We should look back and see what is common understanding from wide perspective.

中島大樹 Taiki Nakashima

【Change Myself in New York vol.2】 2019年5月1日(水)

こんにちは!ユース七期の中山穂香です!

会議3日目の出来事についてお話させていただきます!

1日に私たち9人のメンバーのうち6人がSide Event というイベントを自らが主催しました。私たちのテーマは"To Inherit the Consciousness that All Humans Are HIBAKUSHAS"、『人類みなヒバクシャという意識を継承する』というものでした。人類みなヒバクシャ、という言葉を聞いて皆さんはどう感じますか?

この言葉は私たちがユースとして活動をしていき様々な方々からヒントをもらう中で得た考え方です。現在、被爆者がいなくなる世の中が近づいてきており、一人一人が被爆者の方の思いや記憶を継承していく継承者としての新しい定義でのヒバクシャになれる、また自分はヒバクシャだという自覚をもってほしいという思いを込め、これをテーマに設定しました。

私がこのプレゼンを通して感じたことは2つあります。1つは聴衆を惹きつけるプレゼンを行うことの難しさ、そしてもう1つは平和教育の在り方への問題意識です。

私が難しいなと感じたのは、自分が言いたいことを伝えながら聴衆を惹きつけるプレゼンをしなければならないということです。今回はプレゼンを行った後、質疑応答、ユースの活動案についてのアドバイスをいただく時間、継承という観点において私たちができることについてのディスカッションという構成で行いました。来ていただいた皆さんは非常に温かく、イベント終了後も多くのコメントをいただくことができました。しかし途中で間延びしてしまい聴衆の attention がこちらに向かないときがあったように感じました。これは日本で見ていただいた先生方にもご指摘いただいたことでしたが、最後まで間延びを防ぐような工夫をすることができなかったなと反省しています。プレゼンには流れがあり、その流れが重要になると思うので、どのようにすれば流れを完全に断ち切らずに聴衆をリフレッシュさせることができるのか…これは今後のユースの活動でも大きな課題だなと感じました。

ですが質疑応答やディスカッションでコメントをいただいた後に各々がきちんと一言ずつ補足説明や感想など、練習ではできなかったパートを臨機応変にこなせていた点は自分たちでも満足しています。プレゼンは緊張しましたが各々が準備してきたことをきちんと出力できたかなと思います!ずっとバタバタと準備をしてきたので終わった時の安堵感は忘れられません(笑)これからまたメンバー間で修正して回数を重ねるごとに進化していけるようにしていきます!

そして2つ目、私が最も印象に残ったのはプレゼン後のディスカッションです。そこで 平和教育にフォーカスしてお話をいただいた際に、受験競争が加速する中で平和教育の 時間をとることが難しくなっている、という趣旨のお話がありました。私も自身が平和 教育に地域差を感じた経験を通して、平和教育の在り方について非常に興味を持ってい ます。広島から会議に参加している高校生の方が、かつて 8 月 6 日は登校日であったが、現在では登校日でなくなっている、というお話をされていました。日本は目先のことだけではなく、長いスパンでこの問題を捉え、実際に被爆されたヒバクシャがいなくなる世界が近付きつつある今だからこそ平和教育の在り方について考え直すべきなのではないかと思いました。海外の方含め様々な意見や考え方を知ることができ、自分の視野を広げることができました。今回の私たちの Side Event には多くの方が見に来てくださいましたが、皆さんよりよい社会や世界の構築のためにできることを考えていらっしゃいました。私たちには国内外を問わず多くの supporter がいてくださることがわかりました。皆さんの想いを Power に変えてこれからの活動にも励んでいきます!

中山穂香





-Urara's diary-Vol.6-

⟨5/1/2019 NGO room €

-To inherent the consciousness all humans are HIBAKUSHAs->

Yeeeees! I did it!!!!!

ついに!私たちのサイドイベントを NY で無事終えることが出来ました

それと同時に私の隠れた夢だった 会議内容の掲示板が私たちの発表内容を示してて 感無量でした응응

振り返れば半年。ユースになり、NPT 再検討会議に向けての勉強会や準備をしていく中で

サイドイベントをやりたいと声を上げたメンバー6人で 何度も何度も構成を作っては捨て、 夜遅くまで話し合い、お互いに必要な部分を言ったり励ましあったり…

サイドイベントが終わった瞬間涙がこぼれそうでした⊕

実は NY 渡航前日まで、渡航する実感もなく もっと言うと行きたくないという感情すらありました。 それはプレゼンテーション内容が完璧な状態で 完成しておらず、自分たちの中ではまだまだ話し合いと訂正が必要で、 課題がたくさんある中での渡航となったからです。

でも振り返ると、たくさんのことを学ぶ中で何度も変更しては お互いに言い合って切磋琢磨してきたこの半年は私にとって とても大切な時間で経験だったと思いました。 そして、一緒に作り上げた 5 人に感謝でいっぱいです。ありがとう♥ 毎日毎日サイドイベントのことを考えては辛くなったり それぞれが自身を追い込んだりもしたけど こんなにもプレゼンテーションをどのようにしていくのかの 構成や対象者、いかに伝え継承させていくのかといった部分を学べました。 このメンバーじゃなきゃ、出来なかったことで このメンバーだったからこそ成し遂げられた サイドイベントだったと思います。

田上市長をはじめとした約50名のご来場して下さった方々と、足を運んで下さった高見沢軍縮大使からも

たくさんの高評価と今後の活動についてのアドバイスなどの意見交流の場も設けられ、 成功に終わり感謝しています。ありがとうございました!

この発表で終わらず、帰国後への活動に繋げていけるように もっともっと高みを目指して頑張っていきます!

皆様の応援とサポートをよろしくお願いします ③

牟田麗









5月4日 【Welcome to New York 】

みなさんこんにちわ!! ☑♂ 図 ニューヨークも滞在 1 週間を超えてだんだん身体も慣れてきたところですが、まだ食べ物にはアメリカンに適応しきれてない矢野です!us 今日は土曜日ということで会議もお休みです!なので今日のブログは日々のユースの活動報告というよりは僕が今日訪れたメトロポリタン美術館とブロードウェイの感想をシェアしたいと思います!! ☑ ◎

メトロポリタン美術館はアメリカ合衆国のニューヨーク市マンハッタンにある世界最大級の美術館です! **血**僕は結局ここに4時間程いましたが全部は周りきれませんでした。⑤ (一日中でも無理だから当然だろ!って突っ込まれた方その通りです笑笑)館内の広さはもちろん、その貴重な美術品の数々にただあぜんとするばかり、、⑥中でもゴッホやフェルメールといった誰しもが一度は聞いたことがあるであろう画家の作品を見られて、本当にニューヨークでしか出来ない貴重な経験の一つになったと思います!

次に、ブロードウェイです!今回僕が見たブロードウェイは、、「キングコング」!! 笑笑®これは完全に僕の趣味のチョイスなんでもし興味の無い人がいたらごめんなさい。笑

実はニューヨークに来てからすぐに、どうせニューヨークへ来たならと同じく「シカゴ」というブロードウェイを見ていました。**なら**こちらはさすが昔からずっとみんなから愛されてきた作品だけあって、本当に役者さんの演技なども凄かったですが、今回のキングコングはというと比較的新しいというのもあって役者さんや曲、ダンスというよりはキングコングの迫力がすごいというのが率直な感想です。笑笑®

ここまで二つの有名観光地について、すっごく短い感想を述べさせていただきましたが、 僕が、ユースに入って良かったと思える点はもちろん NPT といった国際会議や国際機 関訪問、普段の生活では経験できないような事もそうですが、こうした日本からでた地 で経験することがとても自分にとって新鮮であり学ぶことも多いことです。②正直海外 では思ってもいないことがバンバン起こりますがそれも込みでユースに入って良かっ たと思います!!

これからもユースをよろしくお願いします!以上現場からお伝えしました!●

矢野大輝







